

## 基本的な考え方(4)：都市の活力を生み出す景観形成

京都に付加価値をもたらし、居住者や来訪者の増加、優れた人材の集積、地場産業・観光産業・知識産業等への投資の増大につなげることにより、都市の活力の維持・向上の源となることを基本とする。

### 基本方針に紐づく取組

従前

H19

H19以降

地区制度による保全				個別指定制度による保全		
・ 伝統的建造物群保存地区 ・ 美観地区（歴史的景観保全修景地区、界わい景観整備地区）  ・ 風致地区 ・ 市街地景観協定						
柱１：高さ規制	柱２：デザイン基準	柱３：眺望景観・借景	柱４：屋外広告物	柱５：歴史的町並み	・ ・ ・	・ ・ ・
【概要】 商業・業務の中心地区である都心部の建築物について一定の高さを認めながらも、盆地景を基本とした空間構成とすることで、景観面の魅力を維持し、活力の向上を図る。  【取組状況】 ・ 高さ制限の見直し（中心部については３１mまで許容し、山裾に向かって次第に低くなる高さ制限）	【概要】 デザイン誘導を図るエリアを拡大し、地域の特性に合わせたデザイン誘導を図ることで、都市全体で魅力的な景観形成を推進する。  【取組状況】 ・ 美観地区等の拡大、デザイン基準の見直し ・ 建造物修景地区の拡大、デザイン基準の見直し	【概要】 都市に付加価値を与える優れた眺望景観の保全創出を図ることで、都市活力の向上を目指す。  【取組状況】 ・ 眺望景観保全地域の指定	【概要】 歴史都市・京都に相応しい品格のある美しい都市景観の形成を図るため、広告物の規制を強化。  【取組状況】 ・ 屋外広告物及び特定屋内広告物の規制の強化 ・ 違反屋外広告物への対応の強化	【概要】 歴史的建造物やそれらが集積する町並みを保全・再生することで、景観形成から都市活力の維持向上を図る。  【取組状況】 ・ 景観重要建造物の指定制度等の積極的な活用、外観の修理・修景に対する助成 ・ 歴史的風致形成建造物の指定等（歴史まちづくり法）		
市民とともに創造する景観づくり	進化するデザイン基準	優れた建築計画の誘導	京町家の保全・継承	歴史的景観保全の充実	地域ビジョンによる景観形成	夜間景観づくりの推進
	【概要】 デザイン会議等で得られた知見を活かし、デザイン基準を進化させることで優れた景観の創出を図る。  【取組状況】 ・ 地域の景観特性に応じたデザイン基準の充実、見直し ・ 両側町の通り景観に配慮した景観地区の見直し	【概要】 優れたデザインの誘導を通して創造的な景観形成を図り、活力の向上につなげる。  【取組状況】 ・ 優良デザイン促進制度の創設	【概要】 京町家の価値を改めて見直し、保全・継承に繋げるため、「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」（京町家条例）を制定（H29年）  【取組状況】 ・ 京町家の解体に関する事前届出制度 ・ 京町家の改修等に対する助成制度の創設・拡充 ・ 京町家マッチング制度の整備・運用		【概要】 地域の将来像・まちづくりの方針、地域で大切に する 自然・歴史・景観、誘導したい機能や空間像等 地域ごとのビジョンを作成し、その実現を通して 活力の向上を図る。  【取組状況】 ・ 地域ごとのビジョンに応じた優れた計画の誘導 ・ 地域の良好な景観形成及びまちづくりの推進に 貢献する建築物を特例許可の対象に追加	【概要】 都市での暮らしや営みを 生き活きとしたものとし、 新たな価値を創造して いくために魅力的な夜間景 観づくりを推進  【取組状況】 ・ 京都らしい夜間景観づく りのための指針策定 ・ 民間事業者等の計画誘 導 ・ 地域住民等主体による 夜間景観づくりの取組支 援

### 提示された主な意見

＜景観の捉え方＞  
・景観を評価する際には、物理的な見え方だけでなく、住民の心理的評価や内面化されて生じる意味、すなわち「風景」の概念など多角的な視点が必要。

・大きな階層での評価だけでなく、人間による評価との折り合いも重要。

＜都市活力への波及効果＞  
・文化は公共財であり、また、経済的な価値を生む源泉である。文化財のような“点”から“線”、“面”的な景観へと展開されることで波及効果が高まる。

・クリエイティブシティなどの概念との関係性も視野にいれるべき。

・高さ規制等により都市の収容能力に一定制限がある。これによる税收減少への対策も検討が必要。

・景観整備による治安向上など、中心部での保全だけでなく郊外エリアにも政策的メリットを供与できる取組も検討すべき。

＜市民、事業者等の取組やパートナーシップ＞  
・公共空間の利活用が進む中、登場人物も増加しており、新たに景観的配慮を求める対象があるかもしれない。民間の公共貢献や、エリアマネジメントによる管理運営をどう誘導するかも重要。

### 主な関連する計画等

#### 第２期 京都文化芸術都市創生計画

京都のまちをより一層魅力に満ちた文化芸術都市として創生することを目指し、「京都文化芸術都市創生条例」に掲げた事項を総合的かつ計画的に進めるための具体的指針。「成熟した都市文化を基盤に新しい文化を創造し続けるまち」を基本方針に掲げ、京都の文化芸術資源を活用しながら広範な政策分野との融合を図り、新たな価値を創造することで、京都の都市格の更なる向上を図る。

＜施策の方向性＞

- ①暮らしの文化や芸術に対する豊かな感受性をもった人々を育む
- ②多様な文化が根付く暮らしの中から、最高水準の文化芸術活動を花開かせる
- ③京都の文化芸術資源を活用し、文化を基軸にあらゆる政策分野との融合により、新たな価値を創造する
- ④様々な文化交流を推進し、京都の魅力を発信する

#### 京都観光振興計画２０２５

市民の暮らしの豊かさの向上、地域や社会の課題解決、SDGsの達成に貢献し、感染症や災害などの様々な危機や環境問題に対応していく持続可能観光を目指す。現計画の実施期間が令和7年までとなっているため、改訂に向けて検討中。

＜2030年に実現を目指す5つのまちづくりと観光＞

- ①市民生活と観光の調和が図られ、市民が豊かさを実感できる。
- ②あらゆる主体が京都の「光」を磨き上げ、観光の質を高める。
- ③観光の担い手がより活躍し、観光・文化分野での起業・新事業創出が盛んになり、都市の活力向上や文化の継承に寄与する。
- ④感染症や災害などの様々な危機に対応できる、しなやかで力強く、安心・安全で環境に配慮した持続可能な観光を実現させる。
- ⑤MICE都市としての魅力を確立し、世界の人々が集い、多様性を認め合い、世界平和に貢献するまちになる。

#### 京都市持続可能な都市構築プラン(再掲)

都市計画マスタープランに掲げる将来の都市構造の実現を目指し、持続可能な都市の在り方や、その実現に向けたより具体的な方針を示すとともに、より適正な土地利用や都市機能の誘導を進め、都市計画マスタープランの実効性をより高めるために策定した「まちづくり指針」。本市の課題を踏まえ、市内全体を5つのエリアに分類し、各地域の特性に応じた将来像を掲げている。

＜基本方針＞

- ①都心部と周辺部等の拠点の魅力・活力の向上
- ②安心安全で快適な暮らしの確保
- ③産業の活性化と働く場の確保
- ④京都ならではの文化の継承と創造
- ⑤緑豊かな地域の生活・文化・産業の継承と振興

#### 京都市都市計画マスタープラン(再掲)

京都市基本構想に示す京都の将来像を都市計画の観点から肉付けし、長期的な視点に立った都市づくりの将来像ビジョンを明確化するもので、都市づくりを進めるためのための指針。現計画の計画期間が令和7年までとなっているため、次期計画の策定に向け検討中。

＜全体構想 目標とする都市の姿＞

- 【環境】地球環境への負荷が少ない都市
- 【経済】活力ある都市
- 【生活】誰もが快適に暮らすことのできる都市
- 【文化】歴史や文化を継承し創造的に活用する都市
- 【安心・安全】安心で安全な都市

＜地域まちづくり構想＞

各地域の多様な主体により検討した地域の将来像とまちづくりの方針について、都市計画マスタープランに位置付けるもの。  
(18地区で策定・R7.8現在)

### 施策展開状況の点検の視点

いきいきとした暮らしやまちの活気が生み出されるような新たな景観がどのように生み出されているか。